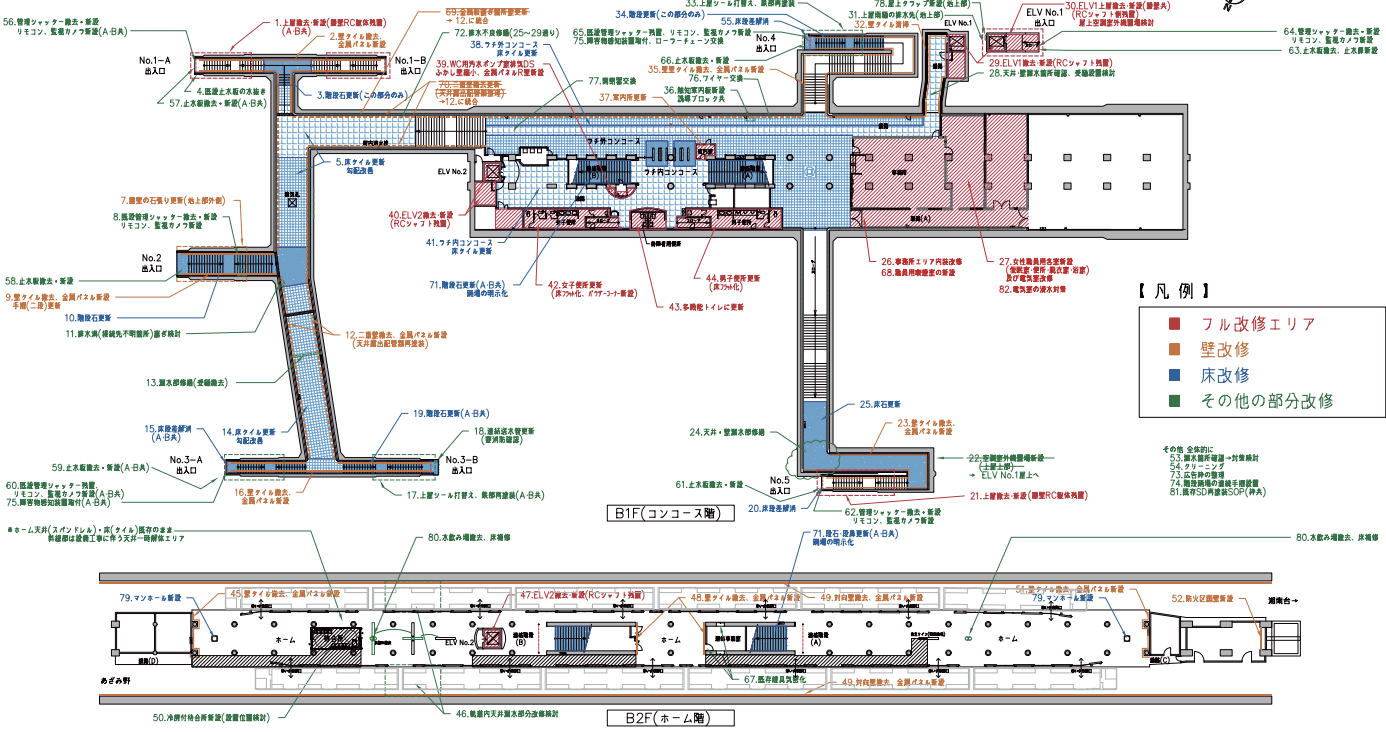


情報収集を重ね、
さらに使いやすい駅へ

横浜市営地下鉄 阪東橋駅



改修項目図



改修項目をまとめた「改修項目図」。意匠設計範囲だけでも、1-82までの番号が振られている



天井・壁・床の改修、案内室の更新を行った改札口周辺



耐久性向上のため、ホーロー製の壁に更新



対向壁は吉田川と新吉田川にちなみ、水の流れを表現

情報を整理することからスタート

前項 Feature 02で紹介した横浜市営地下鉄ブルーラインの上大岡駅から横浜方面へ4駅目にあるのが阪東橋駅だ。1972年12月に開業、老朽化に伴いリニューアル設計を実施した。

同駅ではこれまで不具合が起こった場所をその都度改良・改修を行ってきたという経緯があったため、現状の問題点や改良点を把握しきれていなかった。そこで本プロジェクトでは横浜市営地下鉄側の要望を聞き取りながら、駅舎内外をくまなく歩き、情報収集することからスタート。それらをもとに、既存を生かしながら「本改修では何を行い、何を行わないのか」を一つずつ整理していった。

その結果が上記の改修項目図だ。駅構内はフル改修エリア、壁改修エリア、床改修エリア、部分改修エリアに分けられ、雨漏りしていた歩道の上屋の撤去・新設から、電気室の浸水対策まで、80種類以上のさまざまな改修が行われた。

今回更新した3カ所の地上出入り口の上屋は「見通しを遮らない」という要望を受け、また採光を考慮してガラス張りに仕上げた。このタイミングで駅舎内外で使用する案内サインは、横浜市営地下鉄 サインシステム・マニュアルに沿った設計に統一した。

知見を積み重ねて、他所で生かす

本プロジェクトの特徴は、課題の多さを受けて、これまで以上にクライアントの要望を丁寧に読み解き、リニューアルの道筋を構築したことだ。また課題には電気設計も含まれ、電気機器メーカーとの協働により複雑な電気設備の更新を実施。定時運行を妨げることなく工事完成に至ったことへの評価を得た。

加えて知見を深めたのが「資材の使い方」である。地下鉄には地上にはない特有の規定が多いが、これまで鉄道関連施設の設計で蓄積してきたノウハウにより対応。こうして培われた経験は同じ横浜市営地下鉄の「上大岡駅」でも大いに生かされている。

横浜市営地下鉄 阪東橋駅

所在地	神奈川県横浜市
用途	駅舎（地下鉄）
建築主	横浜市交通局
施工	渡辺組
敷地面積	2,375.20㎡
建築面積	111.05㎡
延べ面積	1,854.50㎡
改修面積	1,854.50㎡
階数	地上1階、地下2階（建基法対象外部分含む）
構造	S造（地上部分）
使用開始	2022年12月
〈担当〉	
統括	清水悟巳
建築	岡田大海、志賀浩平
構造	黒木健太郎*、西祥太郎
設備	金子敦*
電気	木村俊介*、岡田翔太
仮設施工	泉谷隆雄*、三橋純弥
積算	古宮成高
サイン	三輪晴彦、六百田真
C G	齋藤鉄平*、青城伸太郎（*は元社員）

PROJECTS 横浜市営地下鉄 阪東橋駅

当社HPでも
同物件のご紹介をしています。
ぜひ、ご覧ください。

